

「第6次ふくい地域福祉プラン21(案)」に関するパブリックコメント意見募集の結果

「第6次ふくい地域福祉プラン21(案)」について、県民、関係者の皆様、役員から意見を募集しましたところ、4名の方から8件の貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

県社協では、いただいた御意見について、今後の取組みの参考にさせていただきます。

1 意見募集期間

令和8年2月16日(月)～3月4日(水)

2 意見件数(意見提出者数)

8件(4名)

3 提出された意見の概要および県社協の考え方

意見募集の結果は次のとおり

4 その他

いただいたご意見に対する個別の回答はいたしませんので、ご了承ください。

第6次ふくい地域福祉プラン21(案)に関するパブリックコメント意見募集の結果

No.	提出された意見の概要	意見に対する県社協の考え方
【第6次プラン全体について】		
1	県の施策との整合性は検討されたか。また、実施する際には県との役割分担をお願いしたい。	プラン策定時、県の福祉関係計画の方向性を意識している。例えば、『福井県地域福祉支援計画』の方針「地域福祉を支える人づくり」における“ボランティア活動者の確保”に対し、本プランの重点テーマ3「誰もが主体となって支え合う、安心できる地域を目指す取組み」において“福祉共育・ボランティア体験の推進”で歩調を合わせ、特に本会では若年層のボランティア活動の機会の創出に力点を置いている。 その他、県の委託・補助事業を実施していることから、年1回、県と本会が事業の方向性や実施状況等について協議する場を設けており、その際も県の政策に沿うよう検討を行い、効果のある取組みは本会から提案するなど、実現に向けた協力関係を築いてきた。 今後も県の方向性を確認し、両者の役割分担を意識した協議を行い、実践につなげていくよう努めたい。
2	県社協の組織内のみで計画を策定してはいないか。計画策定時ならびに評価の際も、外部関係者の意見を聞き、取り組んでいくことが重要と考える。	前第5次プランの総括時、外部関係者の意見を聞く場を設けており、プランのみならず本会の取組みにいかすこととしている。例えば、「外国人介護職の定着のための支援が重要」という意見を踏まえ、「外国人のための介護技術向上研修」を実施し、好評を得、継続して実施予定である。 また、本会職員は日頃の業務で様々な関係者や県民の方と話しており、そのご意見こそが情勢を映していると自負しており、第6次プランにも反映させている。 しかし、前プランの取組み実績評価においては外部の意見を聞く場は持っておらず、第6次プラン評価の際は、何らかの形で外部の意見を入れる評価を行いたい。

3	<p>[目指す成果]の到達目標は、目標数値だけでなく、現状の数値についても記すべきではないか。</p>	<p>到達目標のみでは達成度がわかりづらいと考え、現状についても数値を記すこととしたい。ただ、事業によっては数値目標の設定が困難なものもあるため、可能な限り明記したい。</p> <p>例：表記の仕方 ○○人→○○人</p>
4	<p>社会情勢の変化などの変化に対応するために3年計画に変更したことは有益と考える。</p> <p>基本目標と推進方を整理し、注力すべきテーマがより明確。福祉を支える最前線の「福祉法人」や「担い手」の持続性と ボランティア意識啓蒙による地域内の当事者意識の醸成が重要と考える。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、情勢などの変化に柔軟に対応し、テーマに注力してまいりたい。</p>

【推進方策1-4について】

5	<p>「シニア活躍の可視化と発信力の向上」について、フレイル予防のためにメディアを大いに活用いただき、シニアの社会参加の場を提供することが重要と考える。</p> <p>電波メディアやインターネット、リアルな交流を織り交ぜることで、広く、時には深く感動を分かち合うことができる。</p> <p>また、シニア世代だけではなく、その孫世代も巻き込む取り組みを行うことで、参加意欲の一層の向上が図られるのではないのでしょうか。</p>	<p>シニアの社会参加の場がさらに広がるような事業実施とともに、報道機関にもご協力いただき、メディアを最大限活用した広報にも力を入れていきたい。</p> <p>また、情報を届ける手法により、受け取る側の感じ方の幅や深さが変わることも考慮したい。</p> <p>シニア層と孫世代の子どもたちとの交流は、シニアの方の参加意欲を高め、子どもたちも異世代交流で得られるものも大きいと考えるので、具体的事業に取り入れていきたい。</p>
---	---	---

【推進方策3、4-12について】

6	<p>重点テーマ③「誰もが主体となって支え合う、安心できる地域を目指す取組み」について、「地域づくり支援」を強化するためには、これまで以上に地域づくりを支援する人材の養成が重要。</p> <p>主な事業で「CSW 実践研究会」や「社協ワーカー養成研修」とあるが、相談支援の事例検討に止まらず、地域住民活動との協働、地域福祉活動の担い手の発掘と育成など、より地域づくりの視点を取り入れた研修に取り組んでもらいたい。</p>	<p>支え合う地域づくりには、支援する人は欠かせず、その養成が重要であることは、いただいたご意見のとおり。</p> <p>県社協としては、地域づくりの中核である市町社協が支え合いの地域づくりを進められるよう、市町社協の職員に実践力をつけていただく取組みを行っており、その一つが「CSW実践研究会」や「社協ワーカー養成研修」である。これらの研修については、いただいたご意見のように、単なる事例検討に留まらず、社協以外の関係者とも連携し、誰もが主体となって支え合う地域づくりを目指した研修実施を行っていききたい。</p>
---	--	--

【推進方策8-22について】

7	<p>基本目標②では「福祉人材確保と定着のための支援の強化」を掲げているが、重点テーマでは特に「定着支援」に焦点を当てている。「定着」も重要であるが、依然として「確保」が大きな課題であるため、福祉人材センターのPRを通じたセンター認知度の向上や、福祉人材センターとハローワーク等との連携を通じた就職者の利便性向上等（令和7年12月18日付け厚労省社会・援護局福祉基盤課長通知参照）にかかる取組みについても追記することが望ましい。</p>	<p>仰せのとおり、「確保」は非常に大きな課題であり、福祉人材センターは人材を確保していなければ紹介ができないため、多くの関係者と様々な取り組みを行いながら、人材確保に努めてきた。</p> <p>一方、福祉現場では離職数が採用数を上回る状況が続き、施設では離職防止策を講じてきたため、離職が減ってはきたものの、予断を許さない状況である。</p> <p>この状況を踏まえ、まずは「確保」が重要という考えは県社協も同様であり、引き続き努めていくことには変わりはないが、せつかく確保した人材を離職させず「定着」させることに注力していきたい。</p> <p>また、近年、福祉人材センターとハローワーク等との連携も進んでおり、いただいたご意見のとおり追記したい。</p>
8	<p>「福祉センター・嶺南福祉人材バンク事業」における到達目標値では、前年度比3%増（無料職業紹介の新規登録者数）とあるが、福祉人材センター利用の就職者数を指しているのであれば、県地域福祉支援計画の数値目標と同等となるよう設定することが望ましい。</p>	<p>本会の到達目標値の新規登録者数は、初めて福祉人材センター・バンクに求職登録した方の数であり、「福井県地域福祉支援計画」の目標値の就職者数は登録者の中から就職された方の数であり、同じものではないため、設定はこのままとしたい。</p> <p>ただ、人材確保は重要と考えており、福祉人材センター・バンクも紹介できる新規登録者を増やすことを目標に掲げ、取り組んでいる。その中から実際に採用された人数を県が就職者数として目標値にあげておられ、本会も方向性を同じくし、今後も一人でも多くの方のマッチングに尽力していきたい。</p>